

日医ニュース

2026. 3. 5 No. 1546

発行所 **日本医師会**
Japan Medical Association
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.info@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/
毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



- トピックス**
- 母子保健講習会 3面
 - 「キッズニア東京」取材会 4面
 - 第9回「生命を見つめるフォト&エッセー」表彰式 6~7面

三師会合同記者会見 日本医師会・四病院団体協議会合同記者会見

今改定の検証をしつつ、医療界が一丸となって国民の生命と健康を守っていく姿勢を示す

松本会長

三師会合同記者会見

松本会長は令和8年度診療報酬改定の改定率決定までの議論に関して、(1)「骨太の方針2025」を踏まえ、インフレ下における賃金・物価上昇への対応を「別枠」で確保する、(2)適正化等の名目により医療費のどこかを削って財源を捻出するのではなく、純粋に財源を上乘せする、い



中医協総会が2月13日に開催され、令和8年度診療報酬改定に関する答申が取りまとめられたこと(関連2面参照)を受けて、日本医師会では同日に日本歯科医師会、日本薬剤師会並びに四病院団体協議会と相次いで合同記者会見を開催した。

松本吉郎会長は、「インフレ下での『道しるべ』となる大変重要な診療報酬改定となった」との認識を示した上で、今回の改定が国民へのより良い医療提供につながるよう検証を行いながら、引き続き医療界が一丸となって国民の生命と健康を守っていく姿勢を示した。

わゆる「真水」による思い切った対策を行う、(3)令和7年度補正予算の土台を「発射台」とする——ことを各方面に求めるとともに、昨年に「国民医療推進協議会」を複数回開催した他、11月には「国民医療を守るための総決起大会」を開催。医科・歯科医療機関及び薬局等が置

かれています。難局を乗り越えるべく、43団体が「一丸」となっており、対応してきたことなどを説明。

レ下での今後の『道しるべ』となる極めて重要な改定となった」として、高市早苗内閣総理大臣を始めとする国会議員、行政関係者、その他、医療界にとって力強い後押しとなった各方面の関係者に改めて感謝の意を表明。その上で、「国民の生命と健康を守るという、我々医療者の使命に対する大きな期待の表れであり、日本医師会は総力を挙げて取り組んでいく」とした。

その結果、公定価格で運営されている医療・介護分野は、賃金・物価上昇分を価格に転嫁することができないため、経営状況が著しく逼迫しているという窮状に理解が得られ、令和8年度診療報酬改定は、『別枠』『真水』『発射台』の三つの

今回の改定の大きなポイントについては、社会保障審議会医療部会・医療保険部会が取りまとめられた、「令和8年度診療報酬改定の基本方針」において重点課題として位置付けられた「物価や賃金、人手不足等の医療機関等を取りまく環境の変化への対応」であると指摘。



松本会長

第二次高市内閣発足の祝意を伝えるとともに、出産費用の無償化に当たって国の対応を要請

賃上げについては、病院における入院ベースアップ評価の届け出が9割を超えていることを受け、令和6・7年度分は入院料に届け込ませ、令和8・9年度分の評価が新たに設定されることとなった一方で、外来・在宅ベースアップ評価料については、医科診療所で4割の届け出にとま

物件費対応については、「これまでの消費税対応を参考に、令和8年度以降の物価上昇への対応を、施設類型ごとの費用効率化やカンファレンス等、連携強化が図られるように思われる」とし

松本吉郎会長は2月25日、安東範明奈良県医師会長と共に首相官邸を訪れ、高市早苗内閣総理大臣と会談を行い、第二次内閣発足に対する祝意を伝えた。

会談の中で松本会長は、令和8年度診療報酬改定における改定率について、地域医療の実情や医療現場の声に一定の配慮がなされたことに謝意を示すとともに、引き続き持続可能な医療提供体制の確保に向けた支援を求めた。

また、先般、松本尚デジタル大臣と意見交換を行い、医療DXの推進に向けて日本医師会が国と連携・協力していく方向

性を確認したことを報告。更に、出産費用の無償化に関して、妊婦が安心して出産できるように、産科医療機関の経営が担保されることが重要だと強調するとともに、保険者や国からの補助などにより、財政措置を拡充するなど、国として万全の対応を講じるよう要請した。

これに対して、高市総理からは医療DXの推進への協力で謝意が示された他、出産費用については「都市部などでは費用が高騰するなど、地域によって差がある現状は理解している」と述べ、具体策を検討していく姿勢を示した。

(2面に続く)

(1面より)
と検証していく必要がある」とした。

その上で松本会長は、「今回の改定がインフレ下での『道しるべ』となる大変重要な改定になった」と改めて述べるとともに、「インフレ下において、賃金上昇・物価高騰を価格に転嫁できない公定価格で運営されている医療機関等に対し、今回の対応が医療現場でどのように反映されるのか、今後、中医協等で検討を示した。」

日本医師会・四病協合同記者会見



松本会長

松本会長は、中医協で行われた令和8年度診療報酬改定の答申を受け、(1)物件費の高騰を踏まえた対応、(2)賃上げに向けた評価の見直し、(3)患者のニーズ、病院の機能・特性、地域医療の構想を踏まえた医療提供体制の整備(入院の見直し)、(4)かかりつけ医機能の評価——を医科部分のポイントに挙げた。

証・分析していく必要がある」とし、「我々、医療団体としても、しっかりと足元の状況を捉え、議論の場に届けていく責務があると考えている」と強調。同時に、今回の改定に関わった関係者に改めて謝意を示し、国民の生命と健康を守る安心・安全の医療提供体制が引き続き実現されるよう、日本の医療を支える三師会として、相互に連携し、団結していく決意を示した。

更に、若手の医師が減り、かつ医療提供体制の確保が必要とされる診療科の医師を対象として、勤務環境・処遇改善を行うとともに、研修体制を整えている医療機関を評価する「地域医療体制確保加算2」や、高度手術を実施する体制を整備し、外科医の勤務環境の改善を図った場合の加算として「外科医療確保特別加算」が新設された点に言及。これは特定の診療科について、特別な評価を行う新たな試みだが、具体的な対応はある程度、医療機関の裁量に委ねられていることから、対象の医療機関においては点数設定の趣旨をご理解頂き、医師の働き方改革及び診療科偏在対策としての効果が発揮されるよう、対応をお願いしたい」と呼び掛けた。

加えて、今回の改定で導入された新たな対応については、今後しっかりと調査・検証を行い、次回以降の改定につなげていく必要性を強調した。



岡日病副会長

加えて、今回の改定で導入された新たな対応については、今後しっかりと調査・検証を行い、次回以降の改定につなげていく必要性を強調した。

猪口正孝全日本病院協会 会長

猪口正孝全日本病院協会 会長

猪口正孝全日本病院協会 会長

猪口正孝全日本病院協会 会長

中医協総会(2月13日)
令和8年度診療報酬改定に関する答申まとまる



中医協総会が2月13日、厚生労働省で開催され、令和8年度診療報酬改定に関する答申がまとめられ、小塩隆十中医協会長から、上野賢一郎厚労大臣に提出された。

当日は、厚生省事務局からこれまでの議論を踏まえ、個別改定項目(いわゆる短冊)に具体的な点数が盛り込まれた診療報酬点数表の改正案が示され、診療・支払両側がこれを了承。答申には、物価対応「賃上げ」など26項目について検討を求め、附帯意見が付記された。

また、診療報酬については、「高齢化や医学の進歩、高度化に対応するための設備投資や医療現場を支える医療従事者の確保、更には、あるべき医療提供体制の構築に対応するため有意義に活用して見たい」とよく分らない部分がある」と述べると、どの程度良い影響が出てくるか状況を見極める姿勢を示した。

その他、ICTやAIの活用による業務の効率化を図った場合に、配置基準を柔軟化する規定が盛り込まれたことなど

今回の改定を糧としてより質の高い医療を提供していく
江澤常任理事

答申の取りまとめを受けて、診療側を代表して意見を述べた江澤和彦常任理事は今回の改定議論について、「昨今の急激な物価高騰、人件費上昇に診療報酬の改定が追い付いておらず、医科・歯科医療機関並びに薬局等の経営状況が著しく逼迫し、閉院や倒産が過去最多のペースになるなど、かつてない異常事態の中での対応であった」と振り返った上で、国民皆保険制度を守るという観点からさまざまな意見が寄せられたことに支払側委員始め関係者に感謝の意を示した。

用されるものであり、そして何よりも国民に質の高い医療を提供する極めて重要な役割を担っている」と強調。今後も、今回の改定を糧として、より一層質の高い医療を提供していくとした。



太田 圭洋 太田医法協副会長

太田圭洋日本医療法人協会副会長は、「急性期病院一般入院基本料」「急性期総合体制加算」「看護・多職種協働加算」の新設の他、「地域包括医療病棟入院料」の見直しなどを踏まえ、「見直しが多岐にわたる大規模な改定となった」と指摘した。

更に、今回の改定率にも言及。近年にない高い水準に設定されたことに謝意を示した一方で、「本



平川 淳一 平川日精協副会長

先の小規模病院を評価した「精神科地域密着多機能体制加算」が新設されたことは「一つの希望ができた」と評価した。

また、精神科の入院対応は精神保健福祉法にのっとり、人権に配慮した複雑な手続きが必要で、入院後も継続されることにも言及。「急性期の段階でかなりの手間が必要だが、現状では十分な評価になっていないと考

平川淳一日本精神科病院協会副会長は、精神保健行政の方向性として、入院中心から地域生活支援や病床削減ばかりを評価する改定が続いてきたとし、「小規模病院の多くが赤字病院であるという現実があり、ダウンサイズは病院存続の危機を招きかねない状況だ」と説明。その上で、今回の改定でダウンサイズやその

体3・09%は、令和8年度には2・41%、令和9年度は3・77%となり、薬価等のマイナスト改定率では令和8年度は1・54%の増加、令和9年度はそこから1・36%の増加に過ぎない。この数値は想定される令和8年度、令和9年度の物価上昇率以下だ」と説明した。

令和7年度母子保健講習会 「プレコンセプションケアを考える」を テーマとして開催

必要がある」と強調

令和7年度母子保健講習会が2月8日、日本医師会館大講堂で開催された。

講習会は渡辺弘司常任理事の司会で開会。冒頭あいさつした松本吉郎会長は、少子化対策は極めて重要な政策課題であるとして、昨年4月より政府が始めた「子ども子育て支援加速化プラン」によって妊婦のための支援給付や妊婦等包括相談支援事業の制度化などが実現されたことに触れ、日本医師会として

も、わが国の母子保健が更に改善されるよう、実効性のある施策の実現に向け、引き続き積極的に政策提言を行っていく考えを示した。

引き続き、渡辺常任理事、三牧正和日本医師会母子保健検討委員会委員長を座長として、5題の講演が行われた。

必要がある」と強調。また、国の動きとして、「プレコンセプションケア」の概念と、日本における必要性について講演。

プレコンセプションケアについては、1990年代から医療分野で用いられてきた概念で、妊娠前の生活習慣や基礎疾患が妊娠・出産、更には産まれてくる子どもの健康に大きく影響することから、公衆衛生的介入として国際的に重視されてきていると説明した。



荒田 部長

荒田尚子国立成育医療研究センター女性総合診療センター女性内科診療

部長は、妊娠前からの健康支援であるプレコンセプションケアの概念と、日本における必要性について講演。

プレコンセプションケアについては、1990年代から医療分野で用いられてきた概念で、妊娠前の生活習慣や基礎疾患が妊娠・出産、更には産まれてくる子どもの健康に大きく影響することから、公衆衛生的介入として国際的に重視されてきていると説明した。



伊東 教授

伊東宏晃浜松医科大学医学部特命研究教授/藤枝市立総合病院顧問は、妊婦の栄養と体重管理が胎児の健康に及ぼす影響について、歴史的背景と疫学的知見を踏まえて講演した。日本では時代とともに「痩せ」が美的価値観として定着し、若年女性のエネルギー摂取不足が常態化していると指摘。実際、妊娠期の摂取エネルギーは推奨量を大きく下回り、出生体重の低下や低出生体重児の増加も続いているとした。



田村 教授

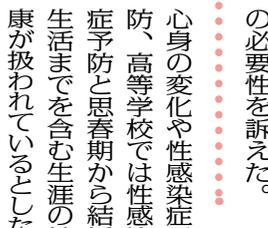
田村好史順天堂大学大学院スポーツ医学・スポーツロロジー/代謝内分泌学教授は、日本における女性の低体重・低栄養状態の現状と、最新の学説を踏まえて講演した。

日本では1970年代後半以降、20代女性の痩せが急増し、現在も約4人に1人が低体重の状態にあると説明。その背景

には、メディアや社会に根付いた痩身志向があり、個人の問題ではなく、社会構造の影響が大きいと指摘した。

また、自身の研究から、影響することを強調し、「プレコンセプションケア」の策定や医療者用マニュアルの整備を進めていることを紹介し、医療現場に対する継続的な相談支援と実践の重要性を訴えた。

また、日本の妊婦体重増加指針の歴史の変遷を解説し、過去の厳格な体重制限が低出生体重児増加の一因となった可能性に言及。近年、周産期リスクを踏まえた新たな統一指針が策定されたことを示し、妊娠期のみならず、プレコンセプションケアや若年期からの食育・健康教育を通じて、社会全体で価値観を転換する必要性を訴えた。



横嶋 教授

横嶋剛日本女子体育大学体育学部スポーツ科学科教授は、学校における性教育の考え方・進め方について、学習指導要領に基づき制度的枠組みを中心に講演した。

文部科学省では「性教育」ではなく「性に関する指導」という用語を用い、発育・発達や疾病予防など、健康教育の一環として位置付け、その指導は、保健体育科を中心として、特別活動や総合的な学習の時間、日常的な個別指導を通じて体系的に行われていると説明。小学校では体の発育・発達、中学校では思春期の

とを強調した。こうした課題への対応に関しては、日本肥満学会が「FUS」を新たな概念として提唱した経緯を紹介し、疾患概念の明確化と社会的認知の重要性を強調。診断基準の検討が課題として、まずは十分な食事、適度な身体活動、睡眠といった基本的な生活習慣への介入が有効であるとし、プレコンセプションケアとも重なる取り組みとして、早期からの国の支援と教育の必要性を訴えた。

心身の変化や性感症予防、高等学校では性感染症予防と思春期から結婚生活までを含む生涯の健康が扱われているとした。



田中 課長

田中彰子子ども家庭庁成育局母子保健課長は、令和5年3月に成育医療等基本方針にプレコンセプションケア推進を初めて明記した後、「プレコンセプションケアのあり方に関する検討会」を設けて議論を重ね、妊娠・出産に関する正しい知識や相談先が十分に知られていない現状を踏まえ、性や健康に関する正しい情報の普及と情報提供、相談支援体制の充実、専門的医療機関の整備を柱とする「プレコンセプションケア推進5か年計画」を昨年5月に策定したことを報告。引き続き

プレコンセプションケアの養成、自治体や専門医療機関による相談体制の構築を進めており、「プレコンセプションケアの認知度8割、プレコンセプションケア15万人、専門相談医療機関数200以上」を目指していると述べた。

また、今後は、医療者向けマニュアルやeラーニングによるプレコンセプションケア養成講座、若者向けWEBサイトによる情報発信、自治体への財政支援等を通じて、地域や医療機関、学校と連携した普及を進めていく考えを示した。

その後に行われた討議では演者と参加者との間で、「プレコンセプションケアの対象年齢や支援体制」「学校教育における性に関する指導の課題」などについて、活発な討議が行われ、講習会は終了となった。

その他、出席者に対しては、「外部講師として学校と連携する際には、指導内容や発達段階を理解し、学校側と十分に協

議をして欲しい」とした。

第161回日本医師会臨時代議員会 次第

日時 令和8年3月29日(日) 午前9時30分
場所 日本医師会館
東京都文京区本駒込2丁目28番16号

- 開 会
- 会長挨拶
- 報 告
令和8年度日本医師会事業計画及び予算の件
- 閉 会

南から北から

石川県
金沢市医師会だより
第637号より

1枚の絵
長谷川洋一



大学生の頃、1枚だけ自分の絵を売ったことがあります。

小さい頃から絵が好きで近所の絵画教室に通ってました。大学生になってからは金沢大学の全学的美術部に所属して活動していました。

その作品は夏の定期展覧会のために描いた風景画でした。作品名は「赤信号」、油彩画で大きさはM15号、猿丸神社の鎮守の森を背景に赤信号が真ん中に点灯している構図でした。たまたま車を運転中に神社前の信号に停車した時に、ふと目に留まった赤信号が印象に残り、描きました。深緑の中に赤信号が映えて我ながらうまくできた作品だったと思います。ちなみに額も自作でした。

さて、私の祖父は小さな医院を経営していました。そして、私の作品を医院の待合室に飾っていました。猿丸神社の絵も展覧会の後、しばらく飾られていました。

ある日、祖父の医院に懇意にしていた設計事務所社長が診察に来まし

た。そして、私の絵を見て買いたいと言いつつ、そうす。何でも自分の事務所が神社の近くで、その絵のことが気に入ったということでした。当初は孫自慢を言っていたお世辞でも言っているのかと思いましたが、思いの外本気でご希望の様子でした。

プロでもないのに絵を売るといっても気が引けましたし、自分の作品は自分の分身のようなもので、手放すことに多少の抵抗がありました。とはいえ、自分の絵を買いたいという人がいるということに驚きと多少の満足感が入り混じった気分がしたのも事実です。結局、あまり強気の値段にするのは憚られたので2万5千円で売りました。これが高いか安いかわよく分かりません。額縁は手作りの貧相なものだったので、額縁は先方で用意すると言われました(絵を買ったことがある方ならばご存じでしょうか、普通は額縁も含めて売買されるものです)。

ヴァン・ゴッホは生前1枚しか絵が売れなかったと聞きます(これはどうやら真実ではなさそうですが……)。私もこの秘に目を澄ます、悠久の時の流れにも似ている。

そして、もう一つ印象に残ったのがトーストの話だった。三浦さんは、もっとなかなか焼いてください」と言う。焦げる寸前まで、パンの水分が蒸気になるのを待つ。割った瞬間にフワッと湯気が立ち上がる、それが本当のトーストの姿だと。焼きたてはすぐに食べる、たったそれだけのことで、朝の風景が少し特別になる。生活の中の小さな音と香りに意識を向けると、日常の解像度が上がるような気がする。

一人娘が東京に出て6年、2人きりになった妻のために料理をすることが増えた。食べてくれた人の顔がほころぶ瞬間、純粋にうれしくなる。けれど、三浦さんが言うように、「作る人は、料理が出来上がるまでの全てを知っている」から、一番おいしいのは作り手自身だ。買い物の際に見る野菜コーナーの彩、まな板に包丁が当たる音、フライパンの油がはぜる瞬間、肉が焼ける香り。全てがその皿に積み重なっていく。

新潟県
新潟市医師会報
NO.656より

おいしー、の手前
佐藤雄一郎



最近、家事がすっかり好きになった。掃除や洗濯も悪くないけれど、一番心が落ち着くのは台所だ。包丁を洗う、まな板にトントンとリズムを刻

む。鍋の中で湯気が立ちのぼる時、仕事の緊張や時間の縛りから少しだけ解き放たれる気がする。料理というのは、誰かのために作っているよう

うに、「作る人は、料理が出来上がるまでの全てを知っている」から、一番おいしいのは作り手自身だ。買い物の際に見る野菜コーナーの彩、まな板に包丁が当たる音、フライパンの油がはぜる瞬間、肉が焼ける香り。全てがその皿に積み重なっていく。

食卓についていた時、作った僕の心の中で祭りが始まっている。母もそうだった。家族で食事を始めた時、必ず最初に「おいしーでしょ?」と言っていた。その理由がようやく分かる。料理は、味だけでなく、それまでのプロセスも味わうことなのだ。料理は、暮らしの即興演奏? 誰かの「おいしー」に背中を押されながら、今日もまたフライパンの中で小さな音楽が鳴っている。そんな時間を、少しずつ好きになっていく自分、何だかうれしい。

私の娘が3年間通った幼稚園を卒園した。テレビの中では卒業・卒園のシーンを見ることはあるが、実体験としては、自分の大学卒業以来20年ぶりである。

しかも今回は人生初めての親の立場としての参加であるため、当日をどういう感情で迎えるのか想像もできなかった。もちろん3年間での娘の成長を思うと感慨深くもなるし、幼稚園の先生方にも感謝の気持ちでいっぱいになる。ただそれだけではない、思いもよらない未知の感覚にとらわれるのではないかと

口セスを味わうことなのだ。手と鼻と目と舌、全ての感覚を使って作りあげた一皿は、誰よりも作った人の五感を満たしている。気付けば、キッチンに立つ時間が、僕にとってのスタジオなのか、まな板の音も、フライパンのリズムも、全てが一つの楽曲のように響く。料理は、暮らしの即興演奏? 誰かの「おいしー」に背中を押されながら、今日もまたフライパンの中で小さな音楽が鳴っている。そんな時間を、少しずつ好きになっていく自分、何だかうれしい。

卒園式の内容として、子ども達が当日まで何度も練習してきたであろう入退場の様子、卒園証書の受け取り、歌と見事な完成度でその光景はやはり涙を誘うものであった。それに加えて、年長クラスを担当された先生方の言葉を聞くと、1年間どんな気持ちで子ども達を見守ってきたかが手に取るように伝わってきた。中には子ども達への教育方法に葛藤しながらの1年であったとの話もあり、日々子ども達の成長を見守る仕事の偉大さを感じさせられた。

式の後には園庭で各々の最後の時間を過ごす。仲の良い友達やお世話になった先生を見つけては「写真撮って」とせがんでくる姿や、園庭の遊具などで友達と全力で遊んでいる娘を見ると、つくづく成長を感じさせられた。ただ、卒園式が終わった後に娘に感想を聞くと、一番に返ってくる言葉が「楽しかった」の一言であった。どうやら練習してきたことが自分の思いどおりであったようで、ものすごく満足気な顔で私に感想を伝えてきた。親としてはわが子の成長をまざまざと見せつけられ、涙ながらにビデオカメラを構えていたが、まだまだそこはげげな子どもの姿であった。話は変わるが、3月は診療の中でもいろいろな別れがある。関わりを持たせてもらった患者さんの転居によるお別れ、また今年スタップのお別れも多かった。別れという寂しい気持ちにもなるが、中には嬉しい別れもある。小学生の頃から見てきた子達が大学に合格したことや就職が決まったことを聞くと、うれしい気持ちになる。特に、不登校で悩んでいた子達の進学が決まったと聞けた時には、一緒に悩んでいた分、自分のことのようにうれしくなってしまう。昨今の社会事情を考えると、自分が学生の時に比べ、いろいろと大変であろうと思うが、全力で頑張ってもらいたいと思う。

山口県
山口県医師会報
第1977号より

別れの季節
岡山 智亮



スリル感いっぱい当日幼稚園を卒園した。テレビの中では卒業・卒園のシーンを見ることはあるが、実体験としては、自分の大学卒業以来20年ぶりである。

しかも今回は人生初めての親の立場としての参加であるため、当日をどういう感情で迎えるのか想像もできなかった。もちろん3年間での娘の成長を思うと感慨深くもなるし、幼稚園の先生方にも感謝の気持ちでいっぱいになる。ただそれだけではない、思いもよらない未知の感覚にとらわれるのではないかと

卒園式の内容として、子ども達が当日まで何度も練習してきたであろう入退場の様子、卒園証書の受け取り、歌と見事な完成度でその光景はやはり涙を誘うものであった。それに加えて、年長クラスを担当された先生方の言葉を聞くと、1年間どんな気持ちで子ども達を見守ってきたかが手に取るように伝わってきた。中には子ども達への教育方法に葛藤しながらの1年であったとの話もあり、日々子ども達の成長を見守る仕事の偉大さを感じさせられた。

式の後には園庭で各々の最後の時間を過ごす。仲の良い友達やお世話になった先生を見つけては「写真撮って」とせがんでくる姿や、園庭の遊具などで友達と全力で遊んでいる娘を見ると、つくづく成長を感じさせられた。ただ、卒園式が終わった後に娘に感想を聞くと、一番に返ってくる言葉が「楽しかった」の一言であった。どうやら練習してきたことが自分の思いどおりであったようで、ものすごく満足気な顔で私に感想を伝えてきた。親としてはわが子の成長をまざまざと見せつけられ、涙ながらにビデオカメラを構えていたが、まだまだそこはげげな子どもの姿であった。話は変わるが、3月は診療の中でもいろいろな別れがある。関わりを持たせてもらった患者さんの転居によるお別れ、また今年スタップのお別れも多かった。別れという寂しい気持ちにもなるが、中には嬉しい別れもある。小学生の頃から見てきた子達が大学に合格したことや就職が決まったことを聞くと、うれしい気持ちになる。特に、不登校で悩んでいた子達の進学が決まったと聞けた時には、一緒に悩んでいた分、自分のことのようにうれしくなってしまう。昨今の社会事情を考えると、自分が学生の時に比べ、いろいろと大変であろうと思うが、全力で頑張ってもらいたいと思う。

私自身40代半ばであるが、今までの人生の中でいろいろな別れを経験してきた。振り返って思い返した時、今の自分にとって大切な別れの記憶は鮮明に残っているものである。もちろん、別れには再会もつきものであるし、出会いがなければ別れも存在しないわけはあるが、別れの瞬間というものは特に感情を揺さぶられる場面ではないかと思う。今回、卒園という別れを経験した娘も、これから先の人生でさまざまな別れを経験すると思うが、別れによって彩られていく娘の人生を楽しみに思う今日この頃である。

健康 ぷらざ

健康に暮らすための
ちょっとしたヒントを
集めました。

アクセスはこちらから!

https://www.med.or.jp/people/plaza/



ホームページでは、550本を超える「健康ぷらざ」の
バックナンバーが無料でご覧いただけます。





日本医師会
Japan Medical Association

https://www.med.or.jp

日本医師会

検索

第9回「生命を見つめるフォト&エッセー」表彰式



フォト、エッセー両部門の 受賞作品を表彰

第9回「生命を見つめるフォト&エッセー」(日本医師会・読売新聞社主催、厚生労働省・文部科学省後援、東京海上日動火災保険株式会社・東京海上日動あんしん生命保険株式会社協賛)の表彰式が2月7日、都内で開催された。

本事業は長年にわたり実施してきた「生命を見つめる」フォトコンテストと「心に残る医療体験記」コンクールを統合、平成29年度より新たに開始したもので、

9回目を迎える今回も多くの作品が寄せられた(フォト部門2872点、エッセー部門1132編)。

また、今回より東京海上日動賞(フォト部門)、東京海上日動あんしん生命賞(エッセー部門)の他、各審査員の名前を冠した六つの特別賞が新設された。

冒頭、主催者を代表してあいさつした松本吉郎会長は、多数の応募へ謝意を示し、受賞作品については、「人や動物の

生命の輝く瞬間を捉えた写真や、ご家族や医療関係者との心温まる交流を描いた原稿など、素晴らしい作品ばかりであり、深い感銘を受けた」と述べ、受賞者へ祝意を伝えた。

また、昨今話題になっている社会保障制度改革について触れ、「制度がどのように変わっても、医療の『人々の生命と健康を守る』という使命が変わることはない」と強調。日々の診療の他、学校健診や予防接種などの

幅広い活動を連携して行い、地域の人々が安心して生活できる環境を支える医師達の働きについて、「その存在を頭の片隅に置いておいて欲しい」と述べ、日本医師会としても引き続き、医師を始めとする医療従事者の活動をバックアップしていく姿勢を示した。

引き続き表彰に入り、まず、フォト部門では「一般の部」の厚生労働大臣賞、日本医師会賞、読売新聞社賞、東京海上日動賞、熊切大輔審査員特別賞、岩合光昭審査員特別賞各1名の受賞者、「小中高生の部」の奈緒審査員特別賞1名の受賞者(文部科学大臣賞1名欠席)にそれぞれ賞状・副賞が授与された。

続いて、エッセー部門では「一般の部」の厚生労働大臣賞、日本医師会賞、読売新聞社賞、東京海上日動あんしん生命賞、養老孟司審査員特別賞各1名の受賞者(玄侑宗久審査員特別賞1名欠席)、続いて、「中高生の部」「小学生高学年の部」「小学生低学年の部」の文部科学大臣賞3名と、養老孟司審査員特別賞、玄侑宗久審査員特別賞各1名、水野真紀審査員特別賞2名の受賞者に、それぞれ賞状・副賞が授与された。

その後の審査講評では、フォト部門審査員を代表して熊切大輔日本写真家協会長が、今回の受賞作品について、回を重ねるごとにレベルが上がっているとの所感を述べた上で、昨今の生成AI画像の進化について言及し、「真偽の分からない写真が世にあふれるようになったが、だからこそ、その場で心が動いた瞬間にシャッターを押すということが、実はますます重要になってきていると思う」と強調した。

また、良い写真を撮るコツとして「目線の高さを変えてみる」と「これからの素敵な日常、笑いがあふれる日常を撮り続けて欲しい」と述べ、受賞者の今後の活動に期待を寄せた。

エッセー部門審査員を代表して養老孟司東京大学名誉教授は、選考を振り返り、写真やエッセーを始めとした表現行為が、それを見た人の心を動かすことの不思議さについて感じているとした上で、エッセーを書くに当たっては「特別な出来事や経験や、もっともらしい文章」ではなく、自身の心が動いた一つの体験について、どこまで深く詰めて考えて言葉にできるかが重要であり、そのように表現されたものを読んだ誰かが、また心を動かされる。これがアートの本質である」とした。

また、今回の審査に関して「素直にどれだけ自分の心が動かされたかでも評価したと述べ、改めて受賞者を祝福した。

表彰式後のレセプションでは、受賞者から写真の説明やエッセーを書いた経緯などの話があった他、審査員から受賞者に対して、どうしてこの作品を選んだのかといった講評が伝えられるなど、盛会のうちに会は終了となった。

※なお、来年度につきましては、「第10回生命を見つめるフォト&エッセー」を開催する予定とされていますので、ぜひ、ご応募願います(応募方法などの詳細は後日に公表予定)。



真家協会長が、今回の受賞作品について、回を重ねるごとにレベルが上がっているとの所感を述べた上で、昨今の生成AI画像の進化について言及し、「真偽の分からない写真が世にあふれるようになったが、だからこそ、その場で心が動いた瞬間にシャッターを押すということが、実はますます重要になってきていると思う」と強調した。

また、良い写真を撮るコツとして「目線の高さを変えてみる」と「これからの素敵な日常、笑いがあふれる日常を撮り続けて欲しい」と述べ、受賞者の今後の活動に期待を寄せた。

エッセー部門審査員を代表して養老孟司東京大学名誉教授は、選考を振り返り、写真やエッセーを始めとした表現行為が、それを見た人の心を動かすことの不思議さについて感じているとした上で、エッセーを書くに当たっては「特別な出来事や経験や、もっともらしい文章」ではなく、自身の心が動いた一つの体験について、どこまで深く詰めて考えて言葉にできるかが重要であり、そのように表現されたものを読んだ誰かが、また心を動かされる。これがアー

トの本質である」とした。また、今回の審査に関して「素直にどれだけ自分の心が動かされたかでも評価したと述べ、改めて受賞者を祝福した。

表彰式後のレセプションでは、受賞者から写真の説明やエッセーを書いた経緯などの話があった他、審査員から受賞者に対して、どうしてこの作品を選んだのかといった講評が伝えられるなど、盛会のうちに会は終了となった。

※なお、来年度につきましては、「第10回生命を見つめるフォト&エッセー」を開催する予定とされていますので、ぜひ、ご応募願います(応募方法などの詳細は後日に公表予定)。



受賞者と語り合う水野さん



受賞者に選抜理由を説明する奈緒さん



「笑顔腕力勝負」
佐藤 萌
東京都・41歳
※年齢は応募締め切り時点

フォト部門 一般の部 日本医師会賞



厚生労働省指定の医師紹介事業

医師の求人・求職は、 日本医師会ドクターバンク!

医師のライフステージやキャリアプランと、医療機関の求人条件を専任の担当者が丁寧にコーディネートいたします。

登録・成立
無料
成功報酬も
一切かかりません!

《日本医師会ドクターバンクの特徴》

- すべての医師・医療機関がご利用可能!
日本医師会の会員・非会員を問わずご利用いただけます。
- 地域ドクターバンクとの強力なネットワーク
都道府県医師会や行政の職業紹介事業所と連携しています。
- 年代・性別を問わず登録医師多数!
全国各地の医師と医療機関を繋ぎます。
- 登録から成立まで無料でサポート!
成功報酬もかかりません。費用を抑えた人材確保を進められます。



日本医師会
ドクターバンク

日本医師会ドクターバンク

TEL 03-3942-6512 URL <https://jmadbk.med.or.jp>



©JMA

エッセー部門 一般の部 日本医師会賞

「完治と閉院の日に」

かんじや 昌弘 まさひろ
東京都・47歳

※年齢は応募締め切り時点



2025年8月13日、暑い夏の午後。ポストを開けると、一通のはがきが目に飛び込んできた。差出人は、T医師。

「80歳を超え、10月に閉院することを決断しました」

「そう書かれていた。開院から26年。僕は、そのほぼ最初からお世話になってきた。」

20歳の時、繰り返す肛門疾患で8度も手術を受け、1年経っても治らず、消化器専門のT先生の元を訪れた。当時、病院は恐怖の象徴。手術台や検査台は、痛みと屈辱の場所だった。だから、初めて会ったT先生も怖く見えた。

検査が始まり、内視鏡が挿入される。先生は、生々しい傷跡を見て言った。「これは大変やっとな、痛かったやろ」

その一言に、胸の奥で何かほげほげした。そして、病名が告げられた。「クローン病」

指定難病で、現代の医学では治らないと言われた。21歳の僕は、頭が真っ白になり、帰り道を覚

えていないほど動揺した。父を早くに亡くし、母の重荷になるのではないかと恐れ、先の見えない不安に押し潰されそうだった。

最初の4年間は、まさに地獄だった。固形物は一切禁止。鼻から細いチューブを通して、栄養剤だけで生きる日々。1日分の栄養を9時間かけて滴らせる。何度も挫折し、3度、自ら命を絶とうとした。それでも、母も先生も僕を諦めなかった。

ある夜、挿入がどうしてもできず、泣きながら先生に電話をしたことがある。「スプーンで一匙ずつ飲んでみなさい」

不味くて到底飲めやしない。反抗もした。「なんでこんな原始的な治療しかないんだ！」

それでも先生は言い続けた。「これが君にとって一番だ。入院せず、自分の生活を守る方法や」

その言葉は、不思議なほど胸に残った。治療は苦痛でしかなかったが、先生の言葉には未来を見据える強さがあった。僕

が病院に縛られず、自分の足で立つていくために。そのための選択だと、少しずつ理解していった。

やがて僕は一人暮らしを選び、病院の近くで治療を続けた。母や姉が食事避ける姿に胸を痛め、孤独と闘いながら、ただ「元気になる」ために。

それから四季は何度も巡り、僕は、チューブを通す違和感にも慣れていったが、心のどこかでは「この苦しみは一生続くのではないか」と怯えていた。

4年後の内視鏡検査で、先生が言った。「よく頑張ったな。もうチューブはやめていい」

その瞬間、全身から力が抜けた。解放感と同時に、食べ物への執着は不思議となくなった。

闘病中に本を読みあさり、クローン病患者会を立ち上げ、世界の厳しい環境で生きる人々を知り、すでに「食べられること」そのものが奇跡だと学んでいたからだ。

あれから26年。今では普通に食事をし、酒も飲む。薬もやめ、指定難病の更新申請もやめた。今年、5枚にもわたる

感謝の手紙を先生に送った。その1カ月後、閉院の知らせが届いた。

それはまるで、僕の回復を見届けてから病院の幕を下ろすかのように。もしあの時、先生が諦めていたら……もし、僕を突き放していたら……今の僕は存在しないだろう。

先生の冷静さと温かさ、その両方が、何度も死の淵から引き上げてくれた。

僕の中で、先生は「医師」である前に、人生の恩人であり、命の伴走者だ。先生、本当にありがとう。ごさいます。あなたへの冷静さと、決して諦めない姿勢が、僕の命をつなぎ、人生を取り戻して

くれました。ありがとうございます。その一言では足りない。それでも、言わせてください。ありがとうございます。

あなたがいないならば、僕はここにいない。その事実だけが、全てです。この命の鼓動が続く限り、あなたから受け取った時間を、誰かの希望に変えて生きていきます。

最初は定職さえ難しかった僕が、やがて海外で働き、研修を受け、今ではカウンセラーとして独立して10年。これまで3万件の相談に向き合ってきました。

あの日救われた命で、今度は誰かの命を支える……それが、僕にできるたった一つの恩返しです。

「第9回生命を見つめるフォト&エッセー」の全ての受賞作品は、下記の公式ホームページでご覧頂けますので、ぜひ、ご覧下さい。



公式ホームページ

日本医師会キャラクター

日医君 グッズ 販売中!



STAR (2枚1組)

BIG (2枚1組)

日医君クリアファイル

A4の書類を入れるのに最適なクリアファイル。STAR/BIG 2種類の柄があります。



日医君ふせん

本や書類に挟むとひょっこり顔を出す日医君が目印となって活躍してくれます。ヨコ/タテ2種あります。



新色

日医君 マスコットボールペン

オレンジが新色として登場(インクは両方共に黒一色)です。胸ポケットに差すと、小さな日医君がポケットから見えるデザインになっています。

青・オレンジ (各1本:2本1組)

日医君ぬいぐるみキーホルダー

手のひらサイズのかわいいぬいぐるみ製キーホルダー。



日医君QUOカード

日医君が描かれたオリジナルデザインのQUOカードです。



案内



令和8年度学校保健講習会

- ◆主催：日本医師会
- ◆後援：日本学校保健会
- ◆日時：4月19日(日) 午前10時から午後4時
- ◆場所：日本医師会館大講堂
- ◆テーマ：学校保健に関する最近の課題
- ◆参加者：日本医師会員等で学校保健に関わる医師
- ◆定員：300名
- ◆プログラム：
 - ・あいさつ(松本吉郎会長)
 - ・「学校医の職務とは」(渡辺弘司常任理事)
 - ・「養護教諭が学校医に伝えたいこと」(吉田真弓全国学校保健連絡協議会長)
 - ・「学校における熱中症対策について」(吉田慶太スポーツ庁スポーツ戦略官)
 - ・「いじめの自殺対策について」(小野雄大ごも家庭庁支援局総務課自殺対策室長)
 - ・「学校指導要領における性教育について」(横嶋剛日本女子体育大学体育学部スポーツ科学科教授)
 - ・「花粉症重症化ゼロ作戦」(岡野光博国際医療福祉大学医学部耳鼻咽喉科)

科学教授)

- ◆申込締切：4月13日(月)午後5時30分
- ◆参加費：無料
- ◆申込方法：日本医師会の学校保健活動ホームページ内の「学校保健講習会」欄「専用サイト」より、受講者が個別に必要な事項を入力し、申し込み願います。



申込サイト

※本講習会を受講すると、日本医師会生涯教育制度の単位(CO11予防と保健5単位)が後日に付与されます。

※大講堂内は自由席です。大講堂内ではお食事はできません。

※旅費の支給はございません。

※本講習会の模様を収録した動画は、後日に日本医師会ホームページのメニュー欄「専用サイト」より、受講者が個別に必要な事項を入力し、申し込み願います。

◆問い合わせ先：日本医師会健康医療第一課(☎03-3942-6138(直)、☎03-3946-1578、g_sakuno@med.or.jp)

書籍紹介



脳卒中治療ガイドライン2021(改訂2020年)

日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会 編



本書は2023年に改訂されたガイドラインの改訂版である。

前版に反映した論文の発表年代以降、2022年1月から2023年12月までの2年間に発表さ

れた論文のうち「レベル1のエビデンス」「レベル3以下だったエビデンスがレベル2となっていて、かつ、特に重要と考えられるもの」を採用する方針の下、該当する項目(140項目中52項目)を改訂している。

また、各章の担当班長・副班長がまとめた「改訂のポイント」を冒頭に記すことで、今回改訂した箇所や改訂の経緯などが把握できるよう工夫されている。

更に、各疾患の治療選択肢として登場したGLP-1受容体作動薬や抗

アミロイド抗体治療薬に対する知見、諸々の背景をもつ患者へのDOAC(直接作用型経口抗凝固薬)や抗血小板薬による治療の知見なども反映されており、大変使いやすいうガイドラインとなっている。

定価 8800円(税込) 発行 協和企画



今夜からもう困らない！ 夜の症状緩和

平山貴敏 他 編

本書は、夜間の一般病棟における終末期患者の精神症状、身体症状等の問題を取り上げ、日中とは異なる環境でのように対応するといった「夜間の症状緩和」について記した解説書となっている。

その内容は「はじめに」「夜の症状緩和の極意」「Chapter1 夜間における症状に出会ったら...」「Chapter2 さあ、朝までどう乗り切るか...」で構成されている。

人手がなくてもこのように、あるいはここまで対応するという「朝までの乗り切り方」や、夜間帯ならではの治療・ケアのコツを示している他、随所に症例提示やコラムも散りばめられてお

り、読み飽きない。「患者をただ眠らせればよい」では済ませない、個々の患者の状態を踏まえて対応ができるような内容となっており、大変参考になる一冊と言える。

定価 3520円(税込) 発行 南江堂



人生100年時代のヘルスプロモーションのすすめ

池田正春 監修

近年、わが国では平均寿命が伸び、ライフステージに大きな変化が見られる。それに伴い、健康づくりの主たる目標も「早世をなくすこと」から「高齢化問題、健康寿命の延伸」に取って代わり、認知症予防、フレイル等の新たな健康問題が生じ、脳トレ、筋トレなどの新たな取り組みも行われている。

近い将来、人生100年時代の到来が推測されており、従来の「教育↓仕事↓引退」という3ステージの人生から、生活基盤が大きく変貌し、多様なキャリアやライフステージを経験する「マルチステージ」の人生を送ることが予測される。

本書では、この変革の

時期にふさわしい健康づくり(ヘルスプロモーション)として、来たるべき人生100年時代に備えて、エコチル世代、乳幼児期、壮年期、高齢期の四つのライフステージにおける適切な健康対策を解説している他、認知機能維持や筋力・身体機能低下予防法等も紹介。

また、健康でウェルビーイングな生活を保つ秘訣について論じるばかりでなく、最後には活力ある100歳を目指すための健康づくり活動への取り組みなども紹介されており、大変参考になる一冊となっている。

定価 1650円(税込) 発行 粹書院

全国国民年金基金 日本医師・従業員支部 案内

若い世代の方もご加入のご検討を

国民年金基金は、基礎年金に上乗せする「公的年金制度」です。基金の掛金は、将来の年金額が同じ場合、加入時の年齢が若いほど低く、加入後も変化しませんので、早くご加入された方が掛金総額は少なくなりま

す。

例えば、男性のケースで、25歳0月で終身年金(A型・65歳から生涯給付される年金)に1口ご加入された場合、65歳から月額2万円の年金が終

身支給されます。この場合、掛金は月額8600円、60歳までの掛金総額は361万2000円となります。一方、35歳0月でのご加入では、年金額が同じ場合、掛金は月額1万3060円、掛金総額は391万8000円となり、25歳時加入とは30万6000円の差となります。

また基金は、厚生年金と異なり、ライフプランに応じた自由な設計が可能です。加入時にニース

に合わせた年金の型(終身年金や確定年金など計7種類)や口数を設定できる他、加入後に掛金の増減や一時停止もできるため、まずは負担の少ない掛金で始められます。

新年度を迎えるに当たり、ご家族の方や従業員の方も含め、若い世代の方もご加入をご検討下さい。

問い合わせは基金事務局(☎0120-700650)まで。WEB上でも、資料請求や加入申し込みのお手続きができます。



日医e-learning ログイン方法が変更となります！

本年4月(予定)より、日医e-learningにログインするために使用するIDが下記のように変更となりますので、ご了承願います。

【日医会員ID(10桁の数字)】⇒【MAMISのID】

※4月以降は日医会員IDではログインできなくなります。
 ※MAMISのログインID・パスワードがご不明な方は、お手数ですが、下記までお問い合わせ願います。

<MAMIS運営事務局>

☎0120-110-030(土・日・祝日除く平日10:00~18:00)

問い合わせフォーム：<https://mamis.med.or.jp/contact/>